



養父市一斉避難訓練実施



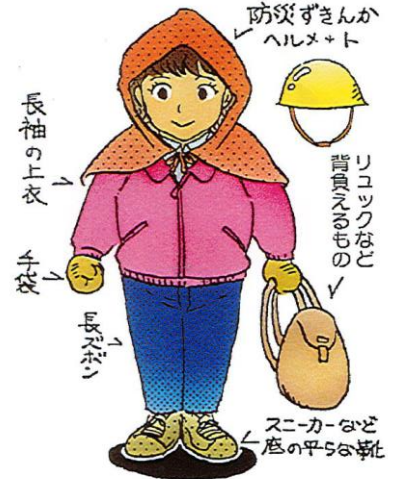
9月4日(日)午前10時より、防災告知システムと緊急防災メールで訓練が開始されました。
コロナ禍でも災害は待ってくれません。いざというときのために、慌てず、焦らず行動しましょう。

各地区により訓練内容は異なります。(放水訓練、初期消火訓練など)
指定緊急避難場所が変更になっている地区があります。確認しましょう。



指定緊急避難場所 (災害が発生した際に最初に避難する場所)

区名	施設名	災害種別	
		風水土砂災害	地震災害
寄宮区	宿南小学校	○(早期避難)	○
	寄宮公会堂	×	○
町区	宿南小学校	○(早期避難)	○
	町公会堂	×	○
川東区	宿南小学校	○	○
	宿南ふれあい倶楽部	×	○
川西区	宿南小学校	○	○
	川西会館	×	○
門前区	宿南小学校	○	○
奥三谷区	宿南小学校	○(早期避難)	○
	口三谷公民館	×	○
口三谷区	宿南小学校	○(早期避難)	○
	口三谷公民館	×	○
青山区	青山公民館	○	○



訓練の様子(川東区)



夏休み子ども青谿書院塾

8月19日(金)夏休み子ども青谿書院塾第2回目が青谿書院で開催されました。学びの里プロジェクトメンバーの皆さんの指導で今回は小学生21人が参加しました。

夏休みも終盤となっており、子ども達は宿題を殆ど終えていたようです。見直しと振り返りなどプラスαの学習をしました。



がんばった夏休みラジオ体操

7月21日~8月24日の夏休み期間中、各地区でラジオ体操が行われました。土日祝日、お盆、雨降りがお休みでしたので、合計23日間、みんな早起してよい汗を流しました。

小学生だけでなく地区民の多くの皆さんが参加され無事に終了しました。

やっぱー健康ポイント付与事業として申請しており、ポイントを付与しました。



身近で見られる植物 ⑬

ツククサ〈ツククサ科〉

4月に青色をした草花を紹介しました。その時、「他にも青色の草花があるので、また調べておいてください。」と言っていた花が、このツククサです。道端や畑の縁でよく見られる草です。

花弁は3枚です。大きな青い2枚の花弁が目立ちますが、よく見ると下の方に白い小さな花弁があります。

花の汁を布にこすりつけて染めたりすることから「ツククサ」(着草)とも言うそうです。



「つどい場ベンチ」を設置

養父市社会福祉協議会より、赤い羽根共同募金運動の配分金活用で地域の皆さんが気軽に利用できるベンチをいただきました。

宿南ふれあい倶楽部 玄関横に1台、口三谷山里交流広場に2台設置しました。

座り心地がよい木製のベンチです。ちょっと一休み、歓談などに利用してください。



お知らせ

9月18日(日) 午前 宿南小学校運動会
9月22日(木) 第2回文化部会
10月30日(日) 村民号(出雲方面)
申込書(チラシ)は別途配布

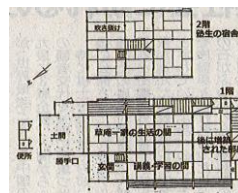
夏休み作品展開催中

宿南小学校児童の夏休み作品展を9月30日までふれあい倶楽部で開催しています。子どもたちが夏休み中がんばった作品をぜひご覧ください。



草庵先生紹介

日記 43



青谿書院の母屋の間取り図

養父市教育委員会提供の資料を基に作成

池田草庵が青谿書院を建ててから170年ほど経っているが、母屋など主なところは、建築当時のまま残されている。造りが豪華であったり、高価な資材が使われたりしているわけではない。むしろ草庵の生き方そのままの質素な建物である。しかし、後に続く人たちが、草庵の精神を引き継いで建物を大事にし続けてきて、現在に残されてきたのだ。この建物を含めて青谿書院は現在、県指定文化財(史跡)となっている。養父市教育委員会の谷本進・教育部次長は「書院の建物の構造は、その時代の農家、特に養蚕農家の構造を参考にしている」と言う。そのころも全国各地には、若者を育てるための立派な藩校や塾もあったが、草庵たちが参考にしたのは近辺の農家の建物だった。

書院はかやぶき(今は保存のためトタンぶき)2階建てで建築されている。1階は畳の間4室、板の間2室、土間2室である。後に塾生が多くなってきたときに瓦屋根の畳の間2室が今までの建物に継ぎ足すように増築された。1階のこれらの部屋は、主に講義や学習の部屋と草庵一家が生活する部屋であった。2階ははしごのような階段を上がっていくようになっている。そこは天井の低い4畳半から8畳の部屋が5室ある。物置として使われる部屋もあったが、主に塾生の宿舎に当てられていた。

「夜になってから肩こりと歯痛。幼い塾生に肩たたきをしてもらう」(弘化4<1847>年6月17日)
「夜、山村讓太郎(現美方郡の人)や他の塾生と酒を酌み交わす」(嘉永元<48>年9月13日)
「端午の節句。休業。時々塾生を呼んでだんらん雑話。夜、岡田真吾(宇都宮藩士)を呼んで小酌しながら対話、夜更けまで」安政2<55>年5月5日)

塾生に肩たたきをしてもらったり、酒を酌み交わしたり、対話したり。こんなことは1階に生活する草庵が2階に寝泊まりする塾生を呼んでできたことだろう。大声をだせば聞こえるような一つ屋根の下で、師弟共に生活しながら、厳しい勉学にも励んでいた。(平成29年6月寄稿 原文のまま掲載)

池田草庵先生に学ぶ会